

事業名 非常食循環システム付き宅配ロッカー

■事業の目的（300 字程度）

過去において非常食は、第 1 に、いつ発生するか分からない災害に備えることから、目につきにくいところにしまい込み、結果として上手く活用されない、第 2 に、賞味期限が切れるまで放置してしまい、廃棄する食品ロスの発生、が問題視されていた。非常食の備蓄は重要であり、東日本大震災、熊本地震の直後には、非常食を蓄える家庭が増加したものの、そのまま放置されている状況が多いことが報告されている。一般的に、企業では社員の 3 日分の非常食が備えられており、賞味期限が近づくと社員に一部が提供されることがある。しかし、残念なことに期限が切れてそのまま廃棄されるケースが後を絶たない。これらの問題を解決するべく、今回開発したのが、イーパルボックスである。

■事業の概要（300 字程度）

イーパルボックスは、防災備蓄品の普及、効率的活用および宅配便の再配達を削減し、地震時には非常食を無料で自動的に提供する防災ソリューションを備えた宅配ロッカーとして開発された。機能は、①宅配ロッカーに防災機能を付加させ、非常食を日常食として販売する自販機能を装備 ②非常食を日常的に販売し循環させることで、賞味期限切れ処分による無駄を削減 ③大地震時には、非常食販売ロッカー扉の自動開放により、非常食の提供が可能 ④宅配ロッカー利用（荷物の受取、引渡の両機能を備え、再配達削減と高い利便性を実現） ⑤AED 専用 BOX を設置（AED の状態を 24 時間 365 日監視。バッテリー切れ、使用期限切れなどを防ぐことができる）できる、機能を備えている。

■社会的課題の現状アプローチ（図表可）

※解決が必要な社会的課題とは、どのようなものですか。

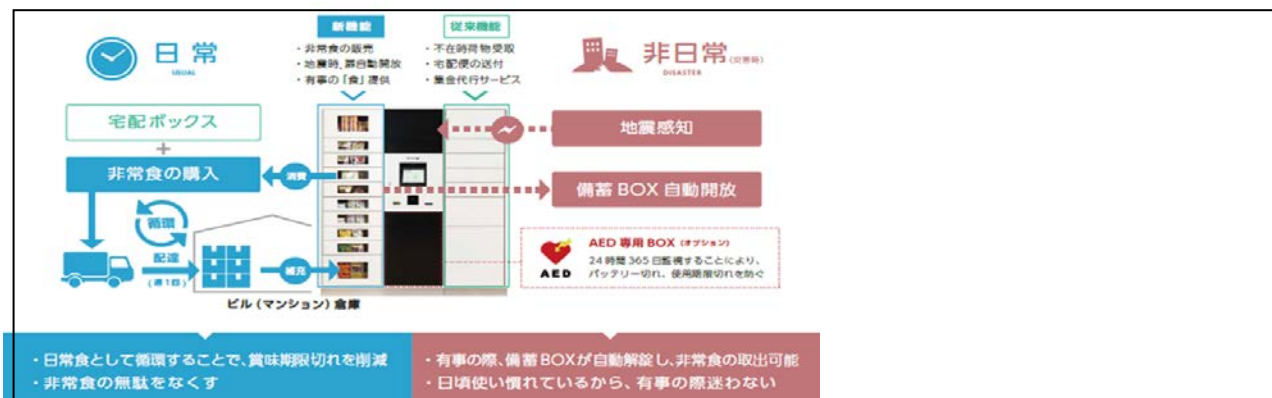
※この課題を解決するために、本事業ではどのような着眼点でアプローチしようとしていますか。

近年、ネット購買による物流問題が指摘され、宅配便取扱件数の急増に伴い、宅配便の約 2 割が再配達となる問題が報告されている。この再配達により、「営業用トラック年間排出量の 1 %に相当する、年間約 4 2 万トンの二酸化炭素の発生（山手線内側面積の 2.5 倍のスギ林の年間吸収量に相当）」、「年間約 1.8 億時間の労働時間の発生（年間約 9 万人分の労働力に相当）」等、大きな社会的損失が生じており、地球環境・社会問題となっている。

更に毎日新聞によると、各自治体において、非常食の廃棄が、過去 5 年の総排気量は 176 万食に上り、有効活用が問われている⁵⁾。リサーチリサーチの調査によると、非常食を備えていない 34.2%、非常食の賞味期限切れを経験 86.7%、非常食で重視するポイントは「味（美味しさ）」、ローリングストックを今後実施したいとの回答は 75%に上る結果となっており、今後の対策が必要である。

■具体の事業内容（図表可）

※上記の課題を解決するという観点から、事業の内容をご説明ください



■実施による効果

※この事業を実施することで、社会的課題はどのように解消される見込みですか。

集合住宅や企業ではこれまで、非常食を目につきにくい倉庫にしまい込み、担当者以外はどこにあるのか、どのくらい備蓄されているのか、状況把握ができていないことが多く、結果として期限切れ処分による無駄が発生していた。今回、イーパルボックスを人の目に触れる場所に設置し、日常食として自動販売する循環システム（ローリングストック）により、企業での防災対策を進化させ、問題の解決を一挙に図ることが可能となる。イーパルボックスの食料は、循環することができるために、長期保存を第一の目的とする必要がなくなり、味を重視した食料の提供が可能となった。さらに、日常的に利用することで、非常時にも日常時と同じ食事をとることができ、災害時での余計なストレス削減につながる。ハード面では、当該ロッカーを設置することで、非常食の循環（食品自動販売）、再配達削減だけでなく、AED の設置、上部スペースには防災用品の設置も可能となる。

■事業の特徴・革新性

※既存の取組と比べてどのような点が特徴的ですか。

※従来の方法と比べて革新的と思われるのはどのような点ですか。

イーパルボックスは、国土強靱化で示されている「ハード・ソフトを組み合わせ」「平時にも非常時にも有効に活用」「民間の取組を促進」を網羅するソリューションである。イーパルボックスは、「防災」というキーワードの基、異業種企業 4 社が集まりそれぞれの企業の得意分野を持ち寄って作り上げた、画期的なソリューションである。これまで 1 社では不可能であった防災対策が、異業種連携により、ハードとソフトの組み合わせ、ならびに、日常と非常時に有効なソリューションを構築することが可能となった。

新しい提案として、イーパルボックスをビル内に設置することで、企業での BCP の一環として効果を発揮し、建物の付加価値を向上させ、地域防災の一部の機能を担うことを想定している。これまで、宅配ボックスの企業内設置は費用の負担面から普及されてこなかった。しかしながら、イーパルボックスは非常食を社員に販売し、ローリングさせることで、3 年に一度の非常食購入の負担が軽減できる。これにより、企業のランニングコストを低下させ、導入のハードルを低くすることが可能となる。さらに、今までは、個人的な宅配便を会社で受け取ることが困難であった企業でも、会社内の宅配ボックス設置により社員の個人的な荷物の受け取りが可能となり、社員の利便性を高めることにも貢献できる。

■今後の展望

※この事業に対する今後の展望をご記入下さい。

災害時に機能するためには日常から使い慣れていることが重要である。美味しい食品を日常的に販売し、宅配ロッカーと併用することで、マンション住民の方、企業の社員が、防災機能を身近に感じ、利便性を向上させ、延いては、企業の BCP 対策、社会問題である再配達の防止、非常食の廃棄の削減にもつながる。これら高機能を保有するイーパルボックスの広域での普及は、災害に強い街づくりに寄与できると考える。

非常食の循環システム付き宅配ロッカーの普及は、昨今問題視されている非常食のローリングストックと再配達削減を可能にして、防災ニーズをあわせた解決が実現できる。

今後は、広く社会に認知されることで、マンション、オフィスビルに設置し、社会に貢献できる事業としていきたいと熱望している。